

株式会社 竹内製作所

2024 年 2 月期・第 2 四半期決算説明会

2023 年 10 月 24 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 竹内製作所		
[企業 ID]	6432		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 2 月期・第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 2 四半期		
[日程]	2023 年 10 月 24 日		
[ページ数]	27		
[時間]	16:00 – 16:30 (合計：30 分、登壇：30 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	竹内 敏也 (以下、竹内)	
	取締役経営管理部長	小林 修 (以下、小林)	
	経営管理部 ESG 推進課長	阪井 大志 (以下、阪井)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



決算のポイント（2024年2月期・上期実績）

（1）販売台数は欧米ともに増加

- 北米の販売台数は **+3.6%**（1Q: +17.6%、2Q: △7.7%、対前年同期比）
- 欧州の販売台数は **+7.0%**（1Q: △1.5%、2Q: +18.3%、対前年同期比）
- トータル販売台数は **+5.5%**（1Q: +6.6%、2Q: +4.4%、対前年同期比）

（2）売上高、利益面ともに^{↓上期として}**過去最高**（売上高は+22.3%、営業利益は+81.9%、対前年同期比）

- 金利と住宅価格の高止まりにより、住宅市場は軟化&調整局面にあるが、水道管やガス管等の生活インフラ工事は堅調で、製品需要は依然好調
- 原材料価格の上昇等の減益要因はあったものの、増収効果と値上げ、運搬費の軟化、さらには為替が追い風となり大幅な増益

(単位: 億円)	2023年2月期（前期）						2024年2月期（当期）		
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	1Q	2Q	上期
売上高	424	436	860	468	460	929	530	521	1,051
売上総利益	98	101	199	111	119	230	129	125	255
販管費	44	61	106	64	47	111	44	41	85
└うち運搬費	26	41	67	43	27	71	21	15	36
営業利益	53	39	93	46	72	118	85	84	169

小林：経営管理部長の小林でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。それでは私から、2024年2月期連結業績の上期実績および通期予想をご説明いたします。

2ページをご覧ください。対前年同期と比較した上期実績のポイントをご説明いたします。まず販売台数ですが、北米、欧州、ともに前期からの好調さは持続したまま順調に推移いたしました。その結果、北米の販売台数は3.6%の増加、欧州の販売台数は7.0%の増加、全体では5.5%の増加となりました。なお、欧州の増加率が高いのは、前期上期の欧州子会社の在庫が期初の時点から不足していたのに対し、当上期は本社からの欧州向け出荷割当台数を増やし、在庫を積み増しして対応したことによるものです。

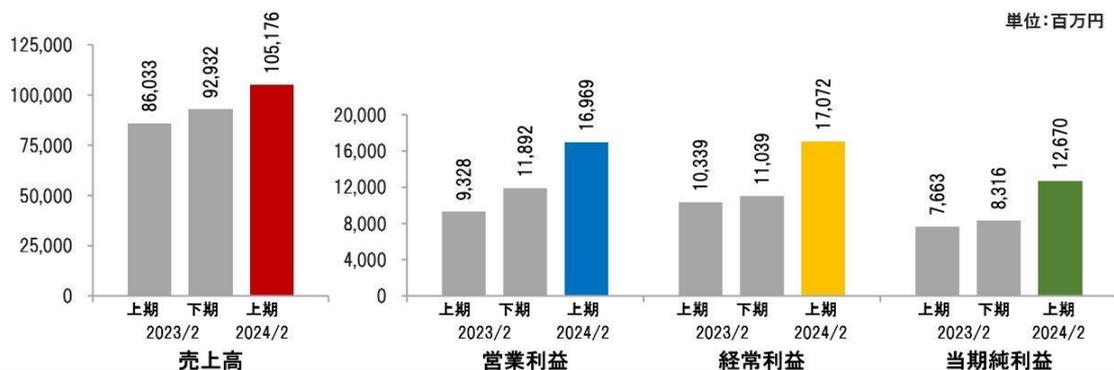
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

次に、売上高と利益についてですが、金利の上昇と住宅価格の高止まりによる住宅需要の減速や、英国での需給バランスの変動に伴う在庫調整があったものの、依然として水道管やガス管等の生活インフラ工事は堅調であったため、製品需要は引き続き好調でした。また、販売台数の増加と値上げ、運搬費の減少、さらに為替円安の追い風もあり、連結売上高は 22.3%の増収、連結営業利益は 81.9%の増益となり、上期としては過去最高となりました。

連結業績ハイライト (2024年2月期・上期実績)

単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期					
	上期実績	売上比率	上期実績	売上比率	前年同期増減額	前年同期増減率	上期期初予想	対期初予想増減額
■ 売上高	86,033	—	105,176	—	+19,143	+22.3%	96,200	+8,976
■ 営業利益	9,328	10.8%	16,969	16.1%	+7,640	+81.9%	14,500	+2,469
■ 経常利益	10,339	12.0%	17,072	16.2%	+6,733	+65.1%	14,400	+2,672
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	7,663	8.9%	12,670	12.0%	+5,007	+65.3%	10,300	+2,370
設備投資額	4,959	5.8%	4,798	4.6%	△160	△3.2%	1,688	+3,110
減価償却費	780	0.9%	1,285	1.2%	+504	+64.7%	1,413	△127
受注高	130,833	—	87,309	—	△43,524	△33.3%	***	—
受注残高	178,649	—	172,880	—	△5,769	△3.2%	***	—

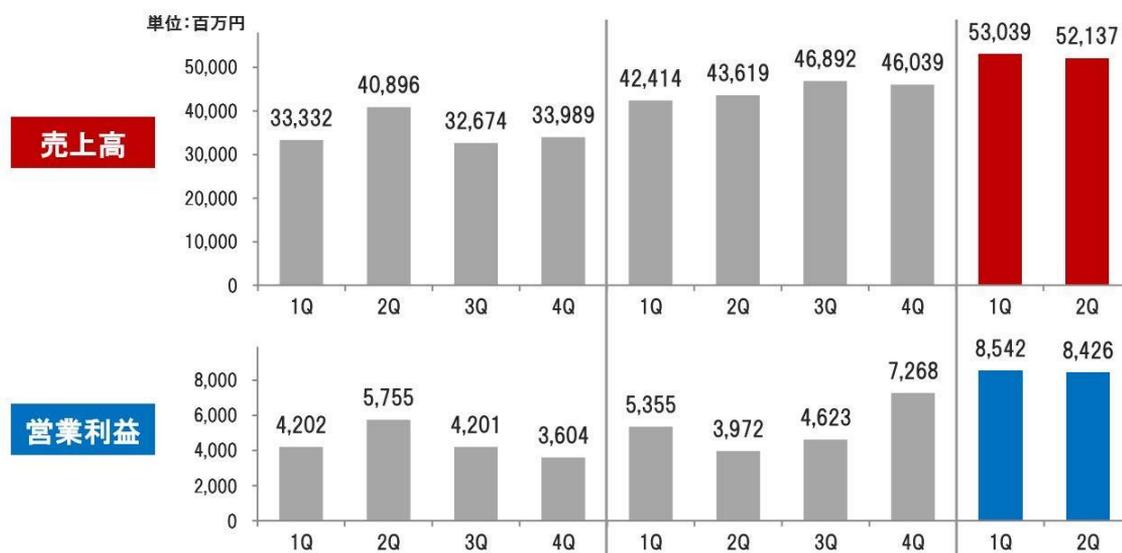


3 ページをご覧ください。連結業績ハイライトをご説明いたします。売上高および各段階利益は対前期比で大幅に増加し、半期としては過去最高の実績となりました。なお、営業利益の増減要因につきましては、後ほど 7 ページでご説明いたしますが、さらに受注の状況につきましては、この後社長よりご説明申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

四半期毎の売上高・営業利益



為替レート	2022年2月期				2023年2月期				2024年2月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
円/米ドル	108.89	109.96	110.66	114.70	121.43	133.43	143.54	134.12	134.74	140.48
円/英ポンド	151.26	153.60	152.21	154.07	157.87	163.51	166.55	163.00	165.80	179.25
円/ユーロ	130.43	131.70	130.56	129.41	133.83	138.77	142.85	142.51	146.10	154.14
円/人民元	16.45	17.07	17.08	17.90	18.56	19.70	20.11	19.60	19.43	19.66

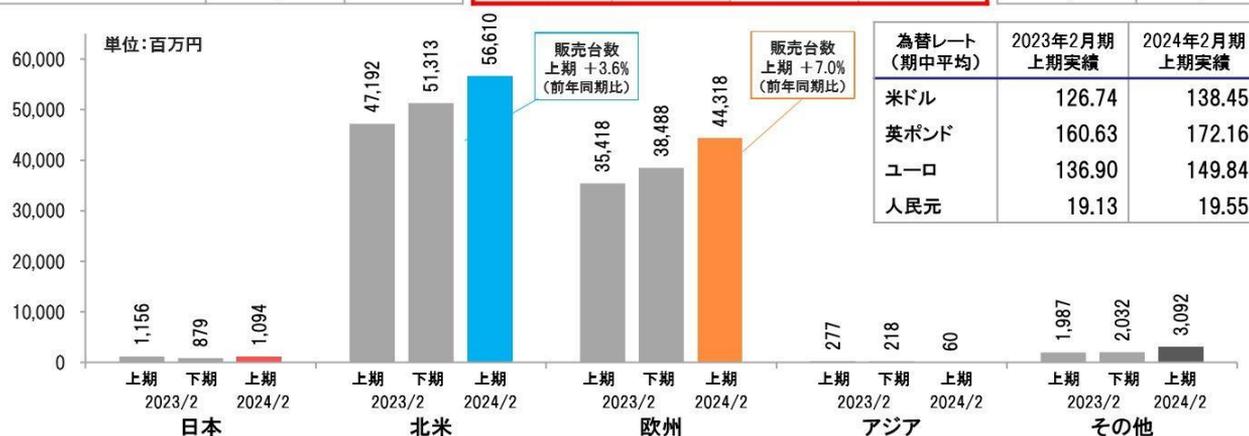
4 ページをご覧ください。四半期ごとの売上高と営業利益の推移です。当第1四半期、第2四半期ともに売上高は販売台数の増加と製品価格の値上げ、さらに為替が円安に推移したことで高水準の実績となり、第1四半期は売上高、営業利益ともに四半期として過去最高の実績となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

地域別売上高（2024年2月期・上期実績）

単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期				上期 期初予想	対期初予想 増減額
	上期実績	構成比	上期実績	構成比	前年同期 増減額	前年同期 増減率		
■ 日 本	1,156	1.3%	1,094	1.0%	△62	△5.4%	1,260	△165
■ 北 米	47,192	54.9%	56,610	53.8%	+9,417	+20.0%	51,510	+5,100
■ 欧 州	35,418	41.2%	44,318	42.1%	+8,900	+25.1%	40,900	+3,418
■ ア ジ ア	277	0.3%	60	0.1%	△217	△78.2%	90	△29
■ そ の 他	1,987	2.3%	3,092	2.9%	+1,104	+55.6%	2,440	+652
売上高合計	86,033	100.0%	105,176	100.0%	+19,143	+22.3%	96,200	+8,976
海外売上高	84,876	98.7%	104,082	99.0%	+19,205	+22.6%	94,940	+9,142



5

© 2023 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.



5 ページをご覧ください。地域別の売上高です。北米の売上高は 94 億 1,700 万円増加の 566 億 1,000 万円。欧州の売上高は 89 億円増加の 443 億 1,800 万円となりました。販売台数が北米では 3.6%増加、欧州では 7.0%増加し、さらに両地域とも製品価格の値上げと為替円安の影響等により、前年同期を大きく上回りました。その他の地域につきましてはご覧の通りでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



所在地別セグメント情報（2024年2月期・上期実績）

単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期			
	上期実績	利益率	上期実績	利益率	前年同期増減額	前年同期増減率
日本売上高	29,448	—	36,166	—	+6,717	+22.8%
セグメント利益	5,739	19.5%	12,458	34.4%	+6,718	+117.0%
米国売上高	47,192	—	56,618	—	+9,425	+20.0%
セグメント利益	4,980	10.6%	5,167	9.1%	+186	+3.7%
英国売上高	6,022	—	7,488	—	+1,466	+24.4%
セグメント利益	510	8.5%	842	11.2%	+332	+65.1%
フランス売上高	3,282	—	4,867	—	+1,585	+48.3%
セグメント利益	236	7.2%	520	10.7%	+283	+119.7%
中国売上高	87	—	35	—	△51	△59.5%
セグメント利益	△13	—	26	75.4%	+39	—

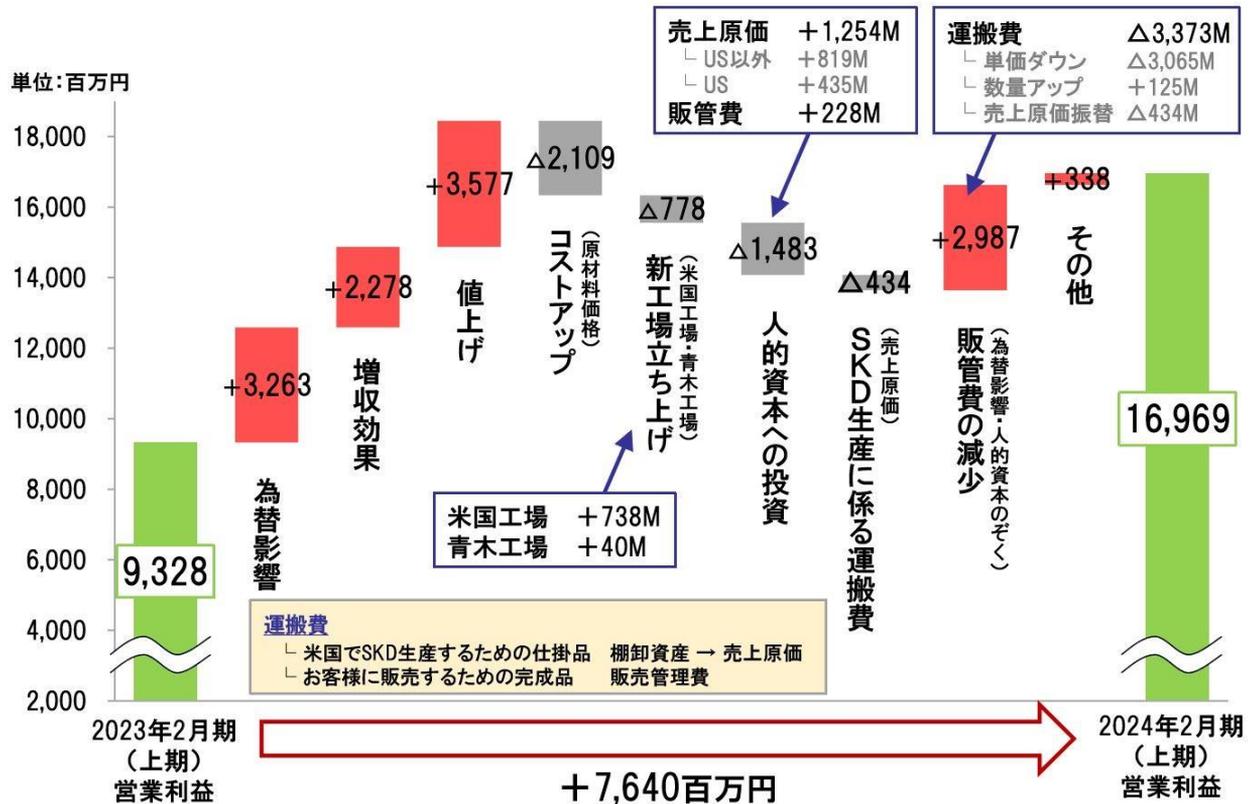
- ▶ 日本セグメント（竹内製作所）
 - ・建設機械の開発、製造
 - ・日本国内での建設機械の販売 / 欧州及びアジア・オセアニア地域のディストリビューターへの建設機械の販売
- ▶ 米国セグメント（TAKEUCHI MFG.(U.S.),LTD.）
 - ・米国及びカナダでの建設機械の販売
 - ・**[NEW]** 建設機械の製造
- ▶ 英国セグメント（TAKEUCHI MFG.(U.K.),LTD.）
 - ・英国での建設機械の販売
- ▶ フランスセグメント（TAKEUCHI FRANCE S.A.S.）
 - ・フランスでの建設機械の販売
- ▶ 中国セグメント（竹内工程機械(青島)有限公司）
 - ・中国での建設機械の販売
 - ・中国及びアジア向けの建設機械の製造
 - ・日本セグメント向けの建設機械の製缶品(部材)の製造、調達及び販売

6 ページをご覧ください。所在地別のセグメント情報につきましては記載の通りでございますので、ご高覧いただきたいと存じます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益増減要因 (2024年2月期・上期実績)



7 ページをご覧ください。連結営業利益の増減要因をご説明いたします。

内訳としましては、為替影響で 32 億 6,300 万円。増収効果で 22 億 7,800 万円。売価の値上げで 35 億 7,700 万円の増益となりました。また、減益要因では、原材料価格のコストアップで 21 億 900 万円、米国工場の立ち上げで 7 億 7,800 万円、人的資本への投資により 14 億 8,300 万円、米国でのセミノックダウン生産に係る運搬費で 4 億 3,400 万円がありました。この他に、為替影響を除いた販管費の減少で 29 億 8,700 万円が増益となりました。この販管費の減少の大部分は運搬費の減少によるものです。

なお、セミノックダウン生産に係る仕掛品の運搬費 4 億 3,400 万円は販管費から売上原価に振替計上しており、営業利益は変動いたしません。売上原価率の上昇要因となりますので、グラフを別表示してお示ししております。

以上により、その他の要因も含め、営業利益は 76 億 4,000 万円増益の 169 億 6,900 万円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結貸借対照表 (2023年8月31日現在)

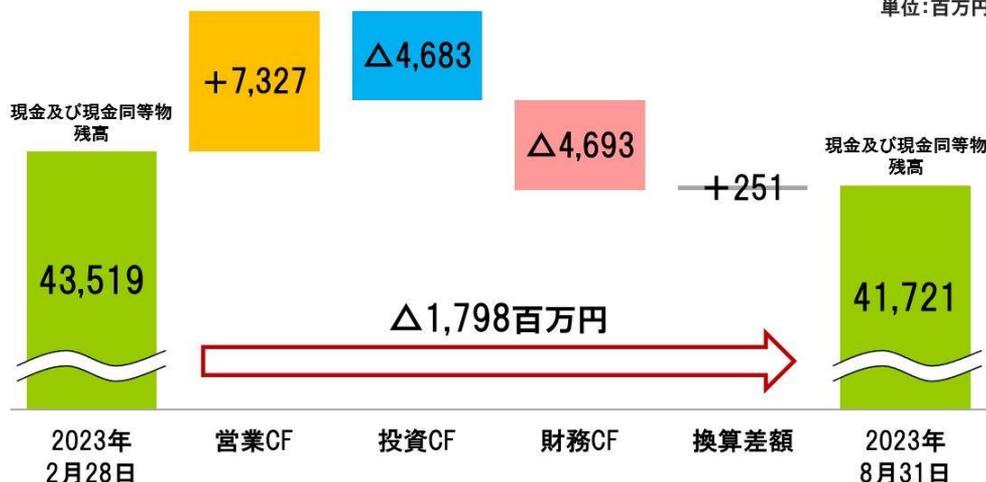
単位:百万円

		2023年2月28日		2023年8月31日			
		残高	構成比	残高	構成比	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	43,995	27.7%	42,197	24.0%	△1,798	△4.1%
	受取手形及び売掛金	35,739	22.5%	45,696	26.0%	+9,956	+27.9%
	棚卸資産	47,723	30.1%	50,569	28.8%	+2,846	+6.0%
	その他流動資産	3,001	1.9%	4,132	2.4%	+1,130	+37.7%
	流動資産	130,459	82.2%	142,595	81.1%	+12,135	+9.3%
	固定資産	28,326	17.8%	33,155	18.9%	+4,829	+17.0%
合計		158,785	100.0%	175,750	100.0%	+16,965	+10.7%
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金	26,755	16.9%	28,650	16.3%	+1,894	+7.1%
	その他流動負債	9,620	6.1%	11,109	6.3%	+1,488	+15.5%
	流動負債	36,376	22.9%	39,759	22.6%	+3,383	+9.3%
	固定負債	606	0.4%	644	0.4%	+37	+6.2%
	負債合計	36,983	23.3%	40,404	23.0%	+3,420	+9.2%
	純資産合計	121,802	76.7%	135,346	77.0%	+13,544	+11.1%
	合計	158,785	100.0%	175,750	100.0%	+16,965	+10.7%

8 ページをご覧ください。連結貸借対照表です。受取手形および売掛金が売上高の増加に伴い、約 100 億円増加し、また固定資産が主に青木工場の取得により約 48 億円増加いたしました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (2024年2月期・上期実績)

単位:百万円



営業キャッシュ・フロー		投資キャッシュ・フロー		財務キャッシュ・フロー	
	増減額		増減額		増減額
税金等調整前当期純利益	17,072	有形固定資産の取得	△4,583	配当金の支払	△4,677
減価償却費	1,285	無形固定資産の取得	△198		
たな卸資産の減少	61	有価証券の償還による収入	100		
運転資金の増加	△7,421				
法人税等の支払	△3,067				
その他	△602	その他	△1	その他	△16
合計	+7,327	合計	△4,683	合計	△4,693

9 ページをご覧ください。連結キャッシュ・フロー計算書につきましては記載の通りでございますので、ご高覧いただきたいと存じます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

業績予想のポイント (2024年2月期・通期予想)

単位:百万円	前回予想 (2023年4月11日公表)			修正後予想 (2023年10月12日公表)				
	上期予想	下期予想	通期予想	上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率
日本	1,260	1,200	2,460	1,094	1,235	2,330	△130	△5.3%
北米	51,510	50,570	102,080	56,610	53,489	110,100	+8,020	+7.9%
欧州	40,900	38,680	79,580	44,318	42,881	87,200	+7,620	+9.6%
アジア	90	90	180	60	119	180	-	-
その他	2,440	2,260	4,700	3,092	2,097	5,190	+490	+10.4%
売上高合計	96,200	92,800	189,000	105,176	99,823	205,000	+16,000	+8.5%
営業利益	14,500	9,500	24,000	16,969	16,130	33,100	+9,100	+37.9%
経常利益	14,400	9,500	23,900	17,072	16,127	33,200	+9,300	+38.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,300	6,900	17,200	12,670	11,529	24,200	+7,000	+40.7%

(1) 下期の製品需要

- 英国では軟化を見込むが、その他の欧州主要国と米国では、力強さを維持する見込み

(2) 電子部品が未装着の仕掛品の先行出荷が3Qで終了

- 当該仕掛品の全てが完成品となり、お客様に販売できる見込み → 下期の販売台数が増加

(3) 売上高、利益面ともに過去最高を予想

- 販売台数の増加、下期での追加値上げ、円安により前回予想を上回る

11

TAKEUCHI

続きまして、2024年2月期連結業績の通期予想をご説明いたします。11ページをご覧ください。

2023年10月12日に、通期の業績予想を修正いたしました。その予想のポイントをご説明いたします。まず、下期の製品需要の見通しですが、英国市場での軟化を見込むものの、その他の欧州での需要は堅調であり、また米国の需要も引き続き力強さを維持するものと予想しております。これにより、売上高は通期と比較して、北米で7.9%、欧州で9.6%、合計では8.5%の増加を見込んでおります。

次に電子部品の調達環境の改善ですが、これまで電子部品の供給不足で、未装着のままの仕掛品の先行出荷が続いておりましたが、これが第3四半期で終了する見込みとなりました。これにより、欧州ディストリビューター向けは日本からの出荷時点での売上計上となり、これまで遅れていた売上計上のタイミングが正常化されることから、従来予想よりも販売台数の増加が見込めることになりました。

サポート

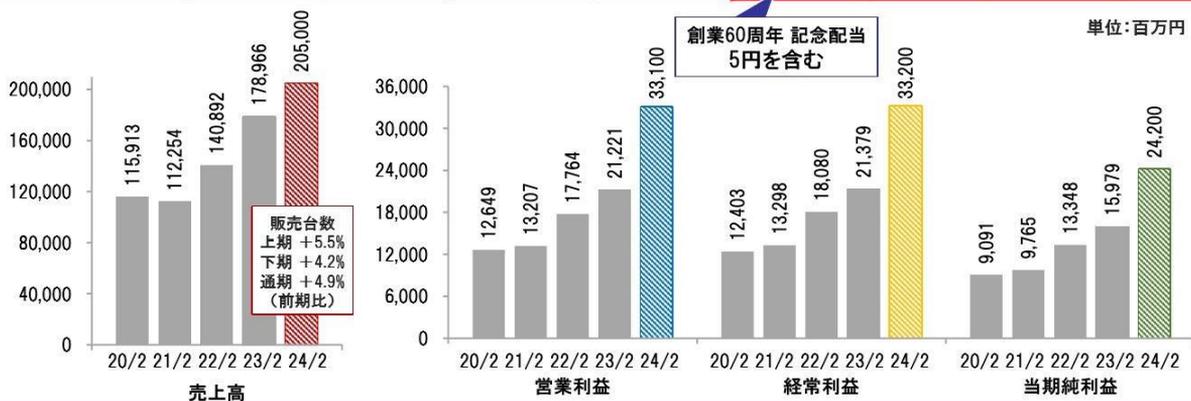
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

もう一つのポイントは、増収効果と収益性の改善による売上高、利益ともに過去最高の業績となる予想です。ただいまご説明しました販売台数の増加以外に、下期に追加の値上げを実施するとともに、為替円安の影響等を加味することで通期業績予想を上方修正いたしました。

連結業績予想ハイライト (2024年2月期・通期予想)

単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期					
	通期	売上比率	上期実績	下期予想	通期予想	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	178,966	—	105,176	99,823	205,000	—	+26,033	+14.5%
■ 営業利益	21,221	11.9%	16,969	16,130	33,100	16.1%	+11,878	+56.0%
■ 経常利益	21,379	11.9%	17,072	16,127	33,200	16.2%	+11,820	+55.3%
■ 当期純利益 <small>親会社株主に帰属する</small>	15,979	8.9%	12,670	11,529	24,200	11.8%	+8,220	+51.4%
設備投資額	8,629	4.8%	4,798	4,251	9,050	4.4%	+420	+4.9%
減価償却費	2,039	1.1%	1,285	2,318	3,604	1.8%	+1,564	+76.7%
1株純利益	335.19円	配当性向	265.81	—	507.68円	配当性向	+172.49円	+51.5%
1株配当金	98.00円	29.2%	—	—	158.00円	31.1%	+60.00円	+61.2%



12 ページをご覧ください。前期と比較した通期の業績予想ハイライトです。

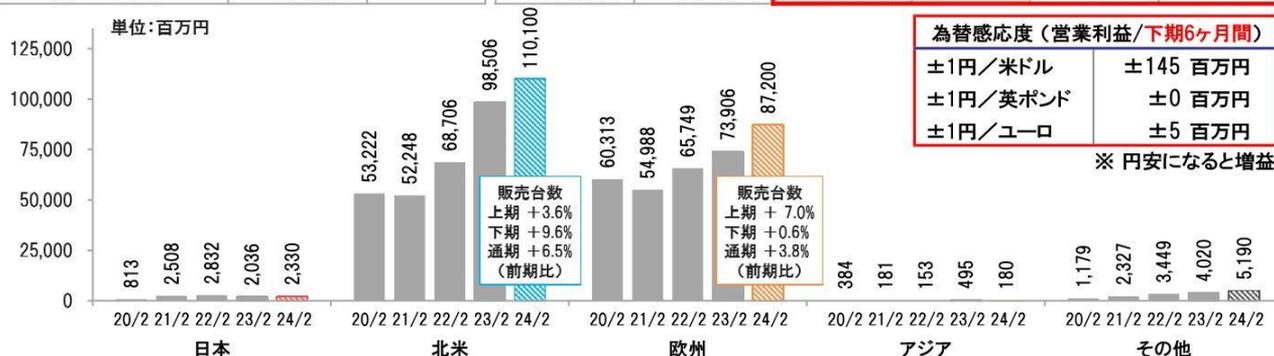
対前期比で、当社グループ全体の販売台数は通期で 4.9%増加し、売上高は 260 億 3,300 万円増加の 2,050 億円、営業利益は 118 億 7,800 万円増加の 331 億円、経常利益は 118 億 2,000 万円増加の 332 億円、当期純利益は 82 億 2,000 万円増加の 242 億円と予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

地域別売上高予想 (2024年2月期・通期予想)

単位: 百万円	2023年2月期		2024年2月期						
	通期	構成比	上期実績	下期予想	通期予想	構成比	増減額	増減率	
■ 日本	2,036	1.1%	1,094	1,235	2,330	1.1%	+293	+14.4%	
■ 北米	98,506	55.0%	56,610	53,489	110,100	53.7%	+11,593	+11.8%	
■ 欧州	73,906	41.3%	44,318	42,881	87,200	42.5%	+13,293	+18.0%	
■ アジア	495	0.3%	60	119	180	0.1%	△315	△63.7%	
■ その他	4,020	2.2%	3,092	2,097	5,190	2.5%	+1,169	+29.1%	
売上高合計	178,966	100.0%	105,176	99,823	205,000	100.0%	+26,033	+14.5%	
円/米ドル	133.12円	—	138.45円	137.00円	137.30円	—	+4.18円	+3.1%	
円/英ポンド	162.58円	—	172.16円	174.00円	173.26円	—	+10.68円	+6.6%	
円/ユーロ	139.81円	—	149.84円	149.00円	149.56円	—	+9.75円	+7.0%	
円/人民元	19.49円	—	19.55円	18.70円	19.12円	—	△0.37円	△1.9%	

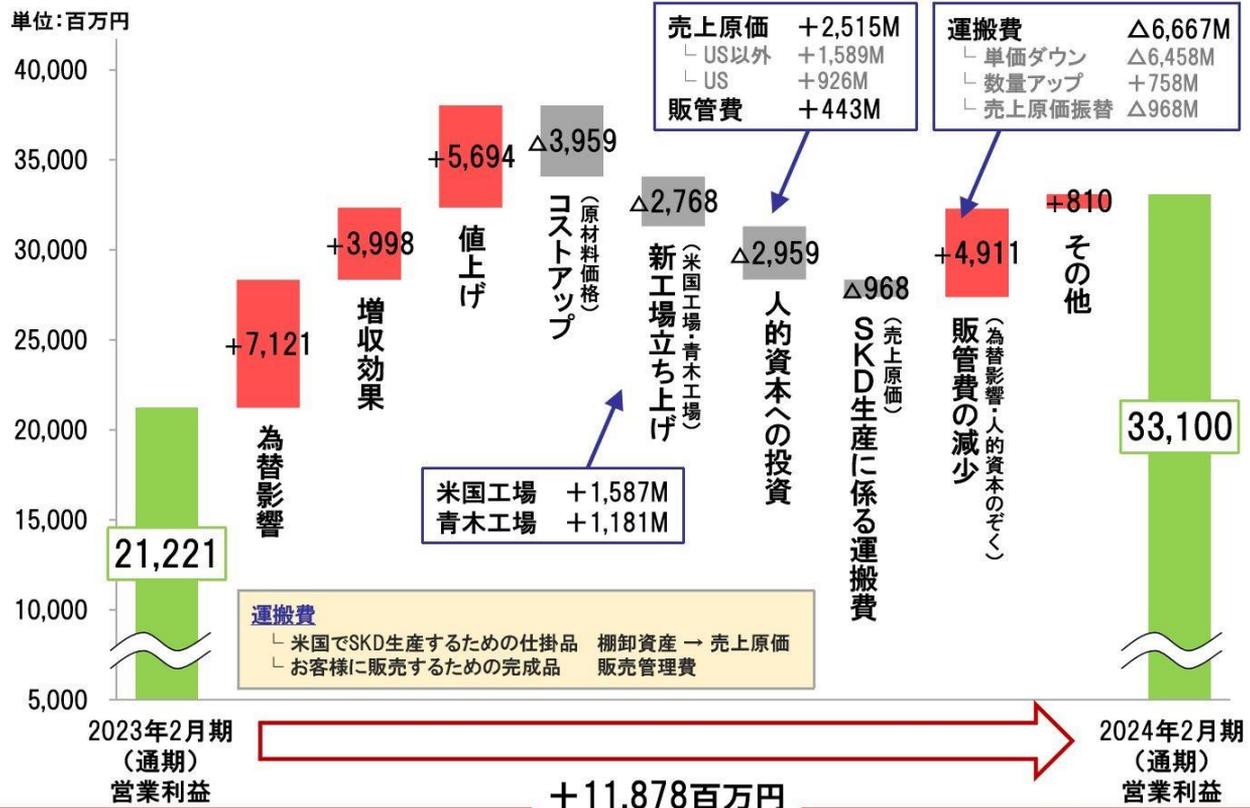


13 ページをご覧ください。通期の地域別売上高予想は記載の通りでございますので、ご高覧いただきたいと存じます。なお、営業利益における下期6カ月間の為替感応度は、米ドルが1億4,500万円、ポンドが100万円未満、ユーロが500万円と見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益増減要因 (2024年2月期・通期予想)



14 ページをご覧ください。連結営業利益の通期予想の増減要因をご説明いたします。

内訳としましては、為替影響で71億2,100万円、増収効果で39億9,800万円、売価の値上げで56億9,400万円の増益を見込んでおります。

また、減益要因では、原材料価格の上昇等のコストアップで39億5,900万円、米国工場と青木工場の稼働開始に伴う償却費および経費の増加で27億6,800万円、人的資本への投資としての、主に人件費の引き上げで29億5,900万円をそれぞれ見込んでおります。

この他に、運搬費の66億6,700万円の減少を含む、販管費の49億1,100万円の減少で増益を見込んでおります。なお、この運搬費の減少と販管費の減少との差額の内訳項目としては、販売台数増に伴い引当を積み増した製品保証引当金と、利益の増加に伴う租税公課がございます。さらに、セミノックダウン生産に係る運搬費9億6,800万円の増加は、先ほど7ページでご説明したように、売上原価への振替計上分としてグラフを別表示しております。

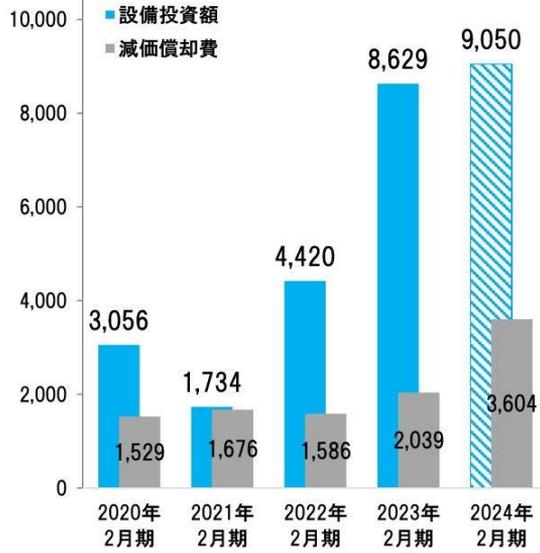
以上によりその他の要因も含め、連結営業利益は118億7,800万円増加し、331億円になると予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

設備投資計画

単位:百万円



◇ 2023年2月期 設備投資の内訳

青木工場	30億円	当期支払い分(建仮) 30億円
米国工場	47億円	土地・建物・付属設備
その他	10億円	治具、金型、試作機、設備の維持更新
合計	87億円	

◇ 2024年2月期 設備投資計画の内訳

青木工場	50億円	当期支払い分 50億円 既支払い分(建仮) 60億円
竹内US	15億円	太陽光パネル └ US本社、米国工場 4.8億円 スラットコンベア 4.5億円 付属設備、機械装置 4.0億円 ほか
社員寮	15億円	本社工場、青木工場の隣地に建設
その他	10億円	治具、金型、試作機、設備の維持更新
合計	90億円	

2021年2月期

Takeuchi US 倉庫増築(約5.4億円)



2022年2月期

USTレーニングセンター(約5億円)



2023年2月期

米国工場(約47億円)



2024年2月期【NEW】

青木工場(約110億円)



15 ページをご覧ください。設備投資計画をご説明いたします。2024年2月期の設備投資につきましては、90億5,000万円を見込んでおります。その主な内訳としましては、青木工場完成による取得で50億円、米国子会社での太陽光発電パネルの設置と工場内のスラットコンベアの導入などで15億円、社員寮の建設工事で15億円、その他に治具や金型等の取得で10億円などを見込んでおります。

以上をもちまして、私からのご説明とさせていただき、この後は社長の竹内よりご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

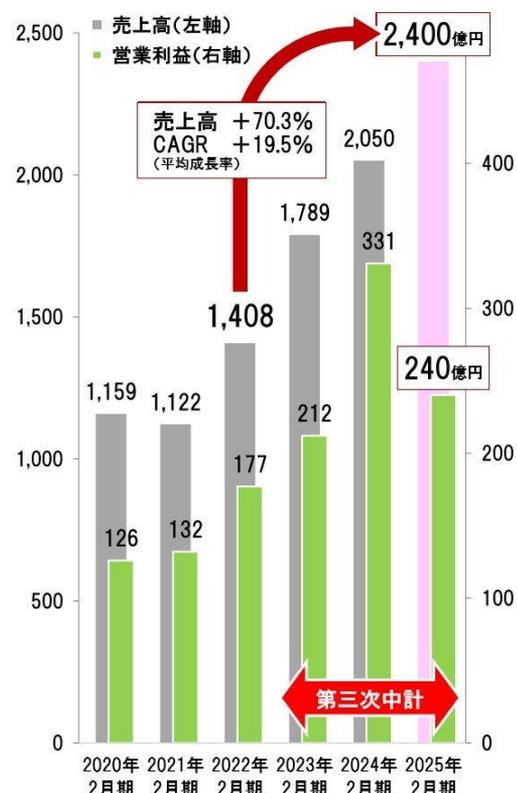
第三次中期経営計画（2023年2月期～2025年2月期）

スローガン、数値目標

パワーアップ、スピードアップ、スケールアップで
売上1,000億円アップにチャレンジする。
 （連結売上高 1,408億円 → 2,400億円）

	2022年 2月期	2025年 2月期	増減率
売上高	1,408億円	2,400億円	+70.3%
営業利益 └ 営業利益率	177億円 12.6%	240億円 10.0%	+35.1%
1株当たり当期純利益	279.91円	377.00円	+34.7%
ROE（自己資本利益率）	13.8%	14.0%	—
米ドル	111.72円	115.00円	+3.28円
英ポンド	153.06円	152.00円	△1.06円
ユーロ	130.57円	127.00円	△3.57円
人民元	17.12円	18.00円	+0.88円

※ 以下のCAPM算定式を基準として、株主資本コストを8%と認識しております。
 リスクフリーレート(1%) + β値(1.2) × マーケットリスクプレミアム(6%)



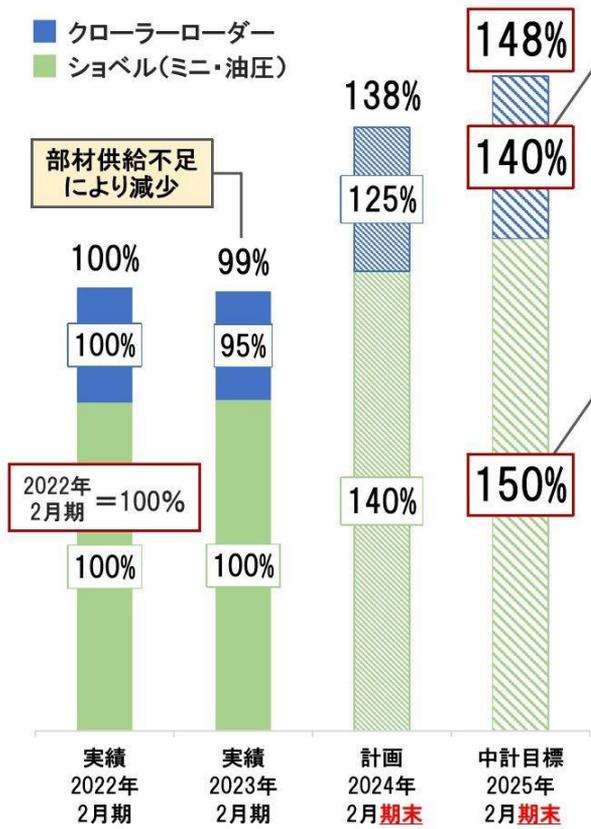
竹内：代表取締役社長の竹内でございます。私からご覧の三つのトピックについてお話をさせていただきます。17ページをご覧ください。

第3次中期経営計画の数値目標で、最終年度となる2025年2月期の連結売上高は2,400億円を目標としています。営業利益と1株当たり当期純利益につきましては、当期において中期経営計画の数値目標を大幅に上回り、前倒しで達成する見込みです。最終年度には、米国工場、青木工場によって増強された生産能力により販売台数を伸ばし、これまでの勢いを維持したいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

生産能力の増強



米国工場 (2022年9月23日～稼働開始)

- ◇ フル稼働: **2025年2月期**の予定
- ◇ Semi Knock Down方式によるクローラーローダーの生産を開始
- ◇ 米国向けSemi Knock Down生産より、欧州向けのクローラーローダー生産を一時的に優先
- ◇ 本社工場から青木工場へのショベル生産の移管完了後、本社工場でのクローラーローダーの生産台数を増やす

青木工場 (2023年9月1日～稼働開始)

- ◇ フル稼働: **2025年2月期**の予定
- ◇ 4トン～9トンのミドルクラスのショベル生産を本社工場から青木工場に移管する。

		本社工場	米国工場	青木工場
ショベル	4トン未満	○	—	—
	4トン～9トン	—	—	○
	9トン～15トン	○	—	—
クローラーローダー		○/SKD	SKD	—

18 ページをご覧ください。当社グループでは、生産能力の増強に取り組んでおります。

まずは米国工場です。クローラーローダーはそのほとんどを米国で販売していますが、最近では欧州でも需要が高まってきております。これを受け、本社工場では、米国工場向けのセミノックダウンの仕掛品より、欧州向けのクローラーローダーの完成品を一時的に優先して生産しております。現在進行中である、本社工場から青木工場へのショベル生産の移管が完了しましたら、本社工場でのクローラーローダーの生産台数を増やし、米国工場でのセミノックダウン生産と、本社工場での完成品の生産を合わせて、クローラーローダーの増産を達成したいと考えております。

続きまして青木工場です。こちらは9月1日から稼働を開始し、4トンから9トンのミドルクラスのショベル生産を本社工場から順次移管しております。本社工場、米国工場、青木工場の3拠点の生産能力は、従来と比較して概ね1.5倍となる見込みです。

米国工場の稼働状況 (2023年5月、スラットコンベア導入)



▶ クローラーローダーの生産能力 (本社工場+米国工場)

2023年 8月・実績	2024年 2月・計画	2024年 8月・計画
75%	90%	100%

19 ページをご覧ください。米国工場では、生産効率を向上させるため、2023年5月にスラットコンベアを導入しました。従業員の安全と製造スキルの向上、そして製品の品質を最優先に、徐々に生産台数を上げてきました。中期経営計画で目標とした生産能力を100%としたときの本社工場と米国工場を合わせたクローラーローダーの生産能力は、2023年8月時点でおおむね75%となり、2024年2月には90%、2024年8月には前倒しで100%に到達するよう取り組んでまいります。

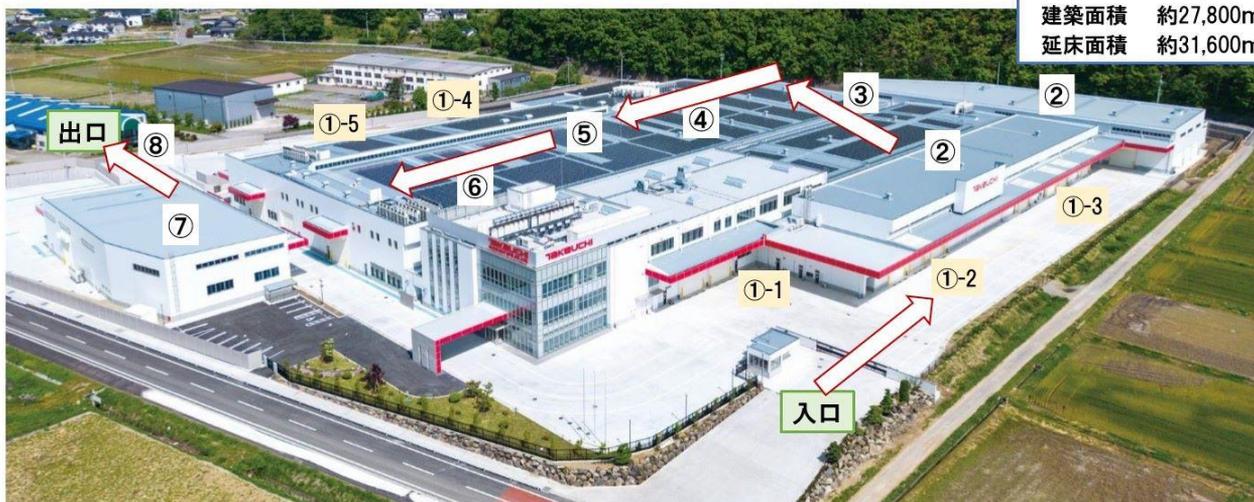
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

青木工場が稼働開始（2023年9月1日～）

青木工場の概要

敷地面積 約50,000㎡
 建築面積 約27,800㎡
 延床面積 約31,600㎡



- ① 搬入口（①-1～⑤の計5か所）
- ② 塗装
- ③ ドッキングライン（足回り）
- ④ メインライン（エンジン、油圧機器、ブーム、アーム等）
～ ④を過ぎると自走可能になる～
- ⑤ 性能・運転検査
- ⑥ 艀装ライン（運転席、キャビン、照明等）
- ⑦ 出荷検査（内外装のチェック）
- ⑧ 出荷

消費電力の大部分を太陽光発電でまかなう。
 CO2フリー電力と合わせて、**グリーン電力100%で工場操業**

▶ 青木工場の生産能力

2023年 8月・実績	2024年 2月・計画	2024年 8月・計画
—	60%	100%

20 ページをご覧ください。2023年9月1日、青木工場が稼働を開始しました。かねてからサプライヤーの皆様には当社の増産計画を説明し、供給量を増やすようお願いしており、満を持しての稼働開始となりました。

生産工程に応じて、搬入口を5カ所設置し、敷地内を運行するトラックの動線を一方通行としました。さらには、工場の入口と出口を別々にし、敷地内の動線を統制することで、安全性と効率性を重視しました。環境面では、大規模な太陽光発電設備を設置し、CO₂フリー電力と合わせて、グリーン電力100%で工場を操業しております。中期経営計画で目標とした生産能力を100%としたときの青木工場の生産能力は、2024年2月時点でおおむね60%となり、2024年8月には前倒して100%に到達するよう取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

青木工場の特長

▶ 物流管理（荷受け&出荷）

部品納入または製品出荷時間をシステム上で予約・管理し、当社と運送会社が情報共有

- ✓ 時間を分散して作業を行うことで、トラックの待機時間を削減したり、工場内や周辺道路の混雑を回避したりすることが可能
- ✓ 部品の到着遅延も監視できるため、状況に応じて、迅速に生産計画を変更することが可能

▶ ロボット導入

省人化・省力化と同時に、製造現場の安全性が向上（誰もが安心して働きやすい工場）

- ✓ 自動搬送ロボット（AGV）… 生産ラインへの部品搬送
- ✓ 塗装ロボット



青木工場の荷受け場



AGV（磁気ガイド上を走行）



塗装ロボット

21

© 2023 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

21 ページをご覧ください。青木工場の特徴についてご説明いたします。

一つ目は、物流管理です。部品納入または製品出荷の時間をシステム上で予約管理し、当社と運送会社が情報共有することにより、当社の搬入作業を効率化したり、トラックの待機時間を削減したり、工場内や周辺道路の混雑を回避したりすることが可能になりました。また部品の到着遅延も監視できるので、状況に応じて迅速に生産計画を変更することも可能です。

二つ目は、ロボット導入です。自動搬送ロボットと塗装ロボットを導入しました。省人化と省力化はもちろん、製造現場の安全性の向上にもつながります。

誰もが安心して働きやすい工場を目指し、これら設備を有効に活用してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

受注高は調整期間へ（製品需要は力強さを維持 → 継続を見込む）

▶ 半期ごとの売上高、受注高、受注残高



- ✓ 積み上がった受注残高の正常化に向けて、お客様と当社グループの双方で受発注を調整
→ 受注残高の正常なレベル: 月商の3~4ヶ月分
- ✓ 米国工場と青木工場により、生産能力は約1.5倍となる
→ 生産・販売の拡大により、受注残高を解消

(単位: 億円)	2023年2月期				2024年2月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	424	436	468	460	530	521
受注高	665	642	470	579	476	396
受注残高	1,580	1,786	1,788	1,907	1,853	1,728

22 ページをご覧ください。受注高と受注残高についてご説明いたします。ご覧いただいているのは、半期ごとの売上高、受注高、受注残高の推移です。

コロナショックにより、受注残高は 201 億円まで一時的に減少しましたが、製品需要は即座に回復し、生産能力を上回るご注文をいただくようになりました。この結果、受注残高は増加し続け、一時期は年商レベルを上回りました。

当上期において、2年半ぶりに売上高と受注高が逆転し、受注残高は減少に転じました。これは受注残高が積み上がった影響で、ご注文から製品を出荷するまでの納期が長期化しているため、これを是正するために一時的に発注を控えたお客様と、生産能力以上の受注を保留とせざるを得ない当社グループの双方で、受発注が調整されたことによるものです。とはいえ、製品需要そのものは好調を維持しており、今後につきましても英国では軟化の兆しがあるものの、大陸欧州と米国の製品需要はこれまでと変わらぬ力強さを維持するものと見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

先ほどもご説明しました通り、本社工場、米国工場、青木工場の3拠点の生産体制により、当社の生産能力は約1.5倍となります。生産台数の拡大により、販売台数と売上高を伸ばすことで、今ある受注残高を解消すると同時に、新規のご注文を獲得するための施策を展開してまいります。

建設機械の電動化に向けての課題

① バッテリー価格の低下&性能向上(稼働時間は長く、充電時間は短く)

- ✓ 電池式の建設機械は、ディーゼル式に比べて高価(概ね2倍~3倍)
→ この価格増の大半を占めるのがバッテリー
- ✓ 乗用車と比べて、大きなパワー(掘削作業、不整地の走破etc)が必要な建設機械の場合、大容量のバッテリーが必要 → 販売価格は高くなり、充電に長時間を要する

② 充電インフラの充実

- ✓ 現状、都市部でさえ充電インフラは不十分であり、山間部では皆無
→ 建設機械が山間部でも稼働することを考えると、100%電動化は考えにくい
→ 電池式以外の低GHGテクノロジー(バイオ燃料、燃料電池etc)

③ 発電インフラの低GHG化

- ✓ 現状の発電インフラでは、充電時に間接排出(Scope2)が発生する
→ 化石燃料による発電から、水力・風力・太陽光などの非化石燃料による発電へのシフト

建設機械の電動化に向けては、外的要因の課題が多くあるものの、当社グループとしては、

6トン未満の電池式ミニショベルのラインナップ拡充に取り組む

油圧ショベル、クローラーローダーはその後

23 ページをご覧ください。建設機械の電動化に向けて、一般的な課題をご説明いたします。

まず一つ目は、バッテリーの価格と性能です。電池式の建設機械はディーゼル式に比べて高価です。この価格増の大半を占めるのがバッテリーであり、バッテリー価格が下がらないと本格普及は困難と考えられています。また、自動車より製品重量が重く、瞬間的なパワーを要する建設機械の場合、より大容量のバッテリーを必要とします。その分、販売価格は高くなり、充電に要する時間も長くなります。

二つ目は、充電インフラです。都市部でさえ不十分であり、山間部では皆無です。山間部でも稼働する建設機械の場合、100%の電動化は考えにくく、電池式に代わるテクノロジーが実用化されないことには脱炭素の道は厳しいと考えられています。

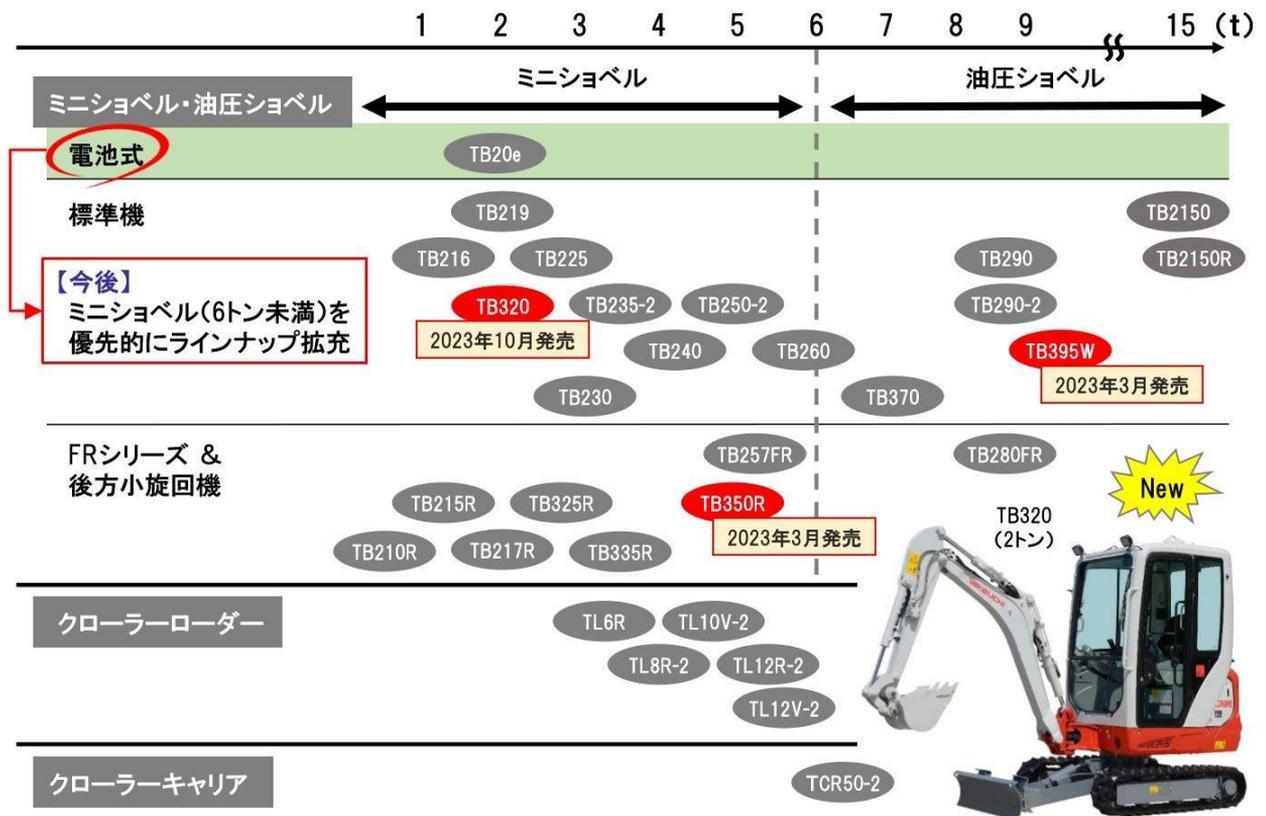
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

三つ目は、発電インフラです。現状の化石燃料による発電では、発電時に温室効果ガスが発生します。そのため、水力、風力、太陽光などの再生可能エネルギーによる発電にシフトしないと、脱炭素に向けた根本的な解決にはなりません。

ここで興味深いのが、二つ目と三つ目のインフラに関する課題解決には、建設機械が必要とされるということです。当社製品が活躍する場所は、今後もますます広がり、今期、来期といった短期的な展望だけでなく、中長期的に考えても、当社製品の需要は、安定拡大が見込めると考えております。だからこそ、当社グループとしましては、まずは6トン未満の電池式ミニショベルのラインナップの拡充に取り組んでおります。大型の油圧ショベルやクローラーローダーは、必要とするバッテリー容量が高く、その分、電動化のハードルも高くなるため、バッテリー、あるいはその他のグリーンテクノロジーの発展を見極めつつ、取り組みたいと考えております。

製品ラインナップ



24 ページをご覧ください。当社の製品ラインナップで、2023年には新製品を3機種、市場投入しました。電池式につきましては、今は1機種だけですが、ラインナップの拡充に向けて6トン未満の電池式ミニショベルの製品開発に取り組んでおります。

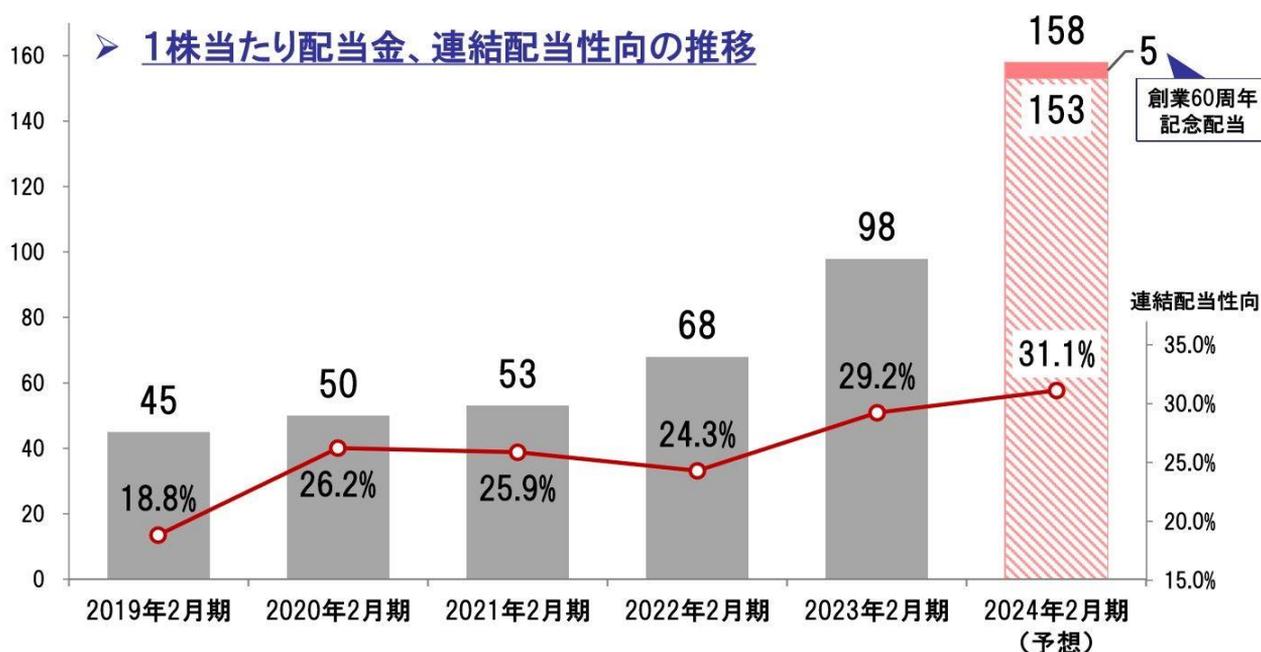
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元、連結配当性向

基本方針： 経営体質の強化並びに今後の事業展開に必要な内部留保を確保しつつ、**連結配当性向30%を目安**として、安定した配当の継続に努める。

自己株取得： 株価水準や資本効率等を勘案のうえ、**自己株式の取得**を適宜実施する。



25

© 2023 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

25 ページをご覧ください。株主還元についてお話しさせていただきます。1株当たり当期純利益は、507円68銭を予想しており、普通配当153円の配当性向は30.1%となります。これに創業60周年の記念配当5円を加えて、今期の期末配当予想は1株当たり158円としました。

以上をもちまして、私からのご説明とさせていただきますが、お伝えしたいことがあります。投資家の皆様、いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。この2月末の決算のときにも申し上げましたが、弊社は2023年8月21日に60周年を迎えることができました。これも投資家の皆様やステークホルダーの皆様からのご支援とご協力の賜物と思っており、感謝申し上げます。

本日は2024年2月期の上期決算の説明でしたが、最後に私から、現在の市場がどのような状況なのか、お話ししたいと思います。つい先日、米国の各ディーラー様にお会いするために米国へ訪問して参りました。コロナ感染症もあり、約4年半ぶりの訪問でした。併せて、サウスカロライナ州ムーアの弊社米国工場にも訪問してまいりました。おかげさまで、米国工場の稼働は計画通り進んでおり、全モデルのセミノックダウン生産が計画通り実施されております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

米国の建設機械の稼働状況ですが、まず道路周辺では各工場、倉庫などの工事がいたるところで行われておりました。建屋の規模もかなり大きく、ここでもショベルを含めた建設機械が数十台規模で使われておりました。掘削にはミニショベルと油圧ショベルを使用し、その後、クローラーローダーで整地し、舗装して完成させていました。

次に各竹内ディーラー様とも話ができました、状況を伺うと、各ディーラー様の士気は高く、まだ住宅工事なども含み、建設機械の動きが活発なので、建設機械の増設をしたいという先がほとんどでありました。ディーラー様は販売とレンタルの両方を行っている先が多く、やはり販売のほうが利益もよく、そちらに力を入れているそうです。竹内製作所が、米国工場と青木工場が稼働させて増産が可能になるのは我々にとっては大変嬉しいと申しておりました。これからも高品質である竹内の機械を購入する、と力強いお言葉をいただきました。このようなことが確認でき、一安心して帰ってまいりました。

一方の欧州ですが、国によって多少の違いがありますが、ほとんどの国のディストリビューター様が、もっと機械を提供してほしいという声が高く、まだ好景気が続いていることを実感しております。また、欧州では今まであまり注目されていなかったクローラーローダーが、使ってみると便利さがわかり、徐々にではありますが注文が増えている状況です。

クローラーローダーには様々なアタッチメントの取り付けができ、様々な作業ができることも理解され広まっております。このようにまだ世界の建機需要は強く、お客様のご要望に応えていくことが我々の使命だとあらためて思い起こされました。

冒頭でも申し上げました 60 周年は、あくまでも通過点であり、皆様の期待を裏切ることなく、当社は進んでまいります。引き続きご支援、ご協力をお願いしまして、私からの説明を閉じさせていただきます。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

